

# 共生社会システム学会ニュースレター

The Association for *Kyosei* Studies

暫定 HP <http://jaks.exblog.jp/>

2007年8月31日発行 第3号

## 目次

1. 2007年度「共生社会システム学会」大会の報告 .....	1
2. 第2回総会のご報告 .....	3
3. 日本学会協議協力研究団体への加盟認可 .....	3
4. 編集委員会からのお知らせ .....	3
5. 運営委員会事務局だより .....	4

## 1. 2007年度「共生社会システム学会」大会の報告

2007年度大会が6月23日(土)に東京農工大学府中キャンパスにて開催されました。午前にはテーマセッション(個別報告)、午後には「共生型エネルギー社会の可能性」というテーマのもと大会シンポジウムが行われました。

正会員55名、学生会員28名、非会員一般14名、非会員学生19名の計116名のご参加を得て、大会は無事終了しました。テーマセッション(個別報告)とシンポジウムの内容は以下のとおりです。

テーマセッション(個別報告)

3セッションにおいて計12名の学会員が口頭報告を行った。

Aセッションでは、共生の視点から農業または地域における現状や新たな動きに焦点をあてた4報告がなされた。グリーンツーリズム、農地管理における市民の参画、地域産業の発展方向性、フードシステムなど今日注目されている問題に関して、設定した特定課題のもとデータ解析や実態調査を通じて考察を試みる意欲的な報告であった。

Bセッションでは、環境問題または動物福祉に関する報告がなされた。アスベスト問題や動物福祉の現状に関して興味深い議論が展開された。「共生」という概念が幅広い対象の研究に有効であることが示された。

Cセッションでは、哲学・社会学の分野より、ネットワーク社会・共同性と身体性・人間形成・承認論に関する報告がなされた。いずれの報告も本学会の重要な課題である共生理念や共生社会をめぐる問題に正面から取り組んだもので、示唆に富む試論が提示された。今後の研究の深化が期待される。

いずれものセッションにおいてもフロアからの質疑を受け活発な議論が行われた。各セッションにおける座長、報告者および演題は以下のとおりであった。

Aセッション：座長：中川光弘(茨城大学)、小野直達(東京農工大学)

- 【1】 中尾誠二(財団法人都市農山漁村交流活性化機構)  
「都市生活者が抱く農山漁村への交流ニーズに関する一考察 『ニッポン全国"田舎"フェア』来場者アンケートの結果を中心に」
- 【2】 星勉(社団法人JA総合研究所)  
「市民参画を目指した新たな農地管理システムの必要性とその可能性 都市計画区域等を中心として」
- 【3】 榎平龍宏(農政調査委員会)  
「『周辺地域』における農業関連産業を核とした地域産業発展の課題と展望 島根県江の川流域の事例を中心に」
- 【4】 西山未真(千葉大学)  
「ローカルフードシステム構築による地域展開の可能性」

Bセッション： 座長：清水本裕（東京農工大学）、津谷好人（宇都宮大学）

- 【1】 吉田央（東京農工大学）  
「マテリアルフローの観点から見たアスベスト問題」
- 【2】 三浦乃莉子・三家詩織・武田庄平・加藤陵・宇田司・柁一成（東京農工大学大学院ほか）  
「動物園動物の飼育環境エンリッチメントの評価方法を考える 飼育下フサオマキザルを例として」
- 【3】 山崎彩夏・武田庄平・黒鳥英俊（東京農工大学大学院ほか）  
「動物園の動物がより豊かに暮らすためにアニマルウェルフェアの理念に基づく環境エンリッチメントの実践 多摩動物公園のオランウータンの場合」
- 【4】 三家詩織・武田庄平・上野吉一（東京農工大学ほか）  
「飼育動物と動物福祉 動物園のリスザルは環境からどのような影響を受けているのか」

Cセッション： 座長：島崎隆（一橋大学）、南里悦史（東京農工大学）

- 【1】 岡野一郎（東京農工大学）  
「ネットワーク社会における共生の問題」
- 【2】 穴見慎一（東京農工大学大学院）  
「人間における<自然（ナチュラル）さ>に見る「共生」の理念」
- 【3】 野田（松本）恵（東京農工大学大学院）  
「K・レーヴィット『人間存在の倫理』についての一考察 共生社会の実現に向けた人間形成の困難さを克服する手がかりとして」
- 【4】 片山善博（国立看護大学校）  
「共生理念の構築に向けて 承認論を軸に」

#### シンポジウム

座長 千賀裕太郎（東京農工大学）

講演 1： 柏木孝夫（東京工業大学）  
「新エネルギー開発の動向と課題」

講演 2： 横山伸也（東京大学）  
「バイオエネルギーの可能性 - 持続的社会的実現のために - 」

講演 3： 飯田哲也（環境エネルギー政策研究所）  
「自然エネルギー政策イノベーション - 市場プル戦略が生んだ世界の急成長と日本の停滞 - 」

コメンテーター： 花岡達也（国立環境研究所）、千年篤（東京農工大学）

講演者 3 氏はいずれも現在エネルギー・環境分野の第一線で活躍なされている。本シンポジウムにおいても限られた時間ではあったが、貴重な情報と豊富な知見を提示して頂いた。

柏木氏は「国家戦略はエネルギー確保から」という基本的姿勢をもって、政府のエネルギー基本計画と新エネルギーイノベーション計画を概説した後、RPS 法の現状と課題やバイオ燃料の今後の方向性を提起した。横山氏はバイオマスの利活用の現状と可能性を展望した後、農産系バイオマス資源の利活用について、特にコメのエタノール変換に関してその経済性の分析をも交えながら、最近年における研究前線の概要を説明した。飯田氏は自然エネルギーの利用動向と政策に関して、ヨーロッパ諸国における経験を中心に説明した後、地域エネルギー政策の新パラダイムを提示した。

3 氏の講演を受けて 2 人のコメンテーターからコメントならびに質問がなされた。花岡氏は共生型エネルギー社会を独自の視点から捉え新エネルギー利用の可能性と課題を示し、他方、千年氏は講演 3 氏の論点に関して経済的視点から質問を行った。最後に、座長の千賀氏がバイオエネルギー利活用の発展には食料生産と競合する農地の利用問題が重要になることを指摘し、今後、本学会でも引き続き議論すべき課題ではないかと問題提起した。

なお要旨集の残部があります。ご希望の方には頒布いたします。

連絡先：千年篤 〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学農学部

切手 500 円分を上記あて先までご送付ください。

その際に、A4の紙が折らずに入る大きさの封筒に、送り先のあて先を書き、170 円切手を貼って同封してください。

---

---

## 2 . 第 2 回総会のご報告

研究大会当日、シンポジウム閉会后、引き続き総会が開催されました。尾関周二、水本忠武両副会長が議長団として選出された後、小原会長から会長挨拶がなされました。その後、進行した総会議事は以下のとおりです。1) 2006 年度事業報告、2) 2006 年度決算報告、3) 2006 年度決算の監査報告、4) 会則に関して、5) 2007 年度事業計画、6) 2007 年度予算。

---

---

## 3 . 日本学術会議協力研究団体への加盟認可

7 月 26 日付で本学会が日本学術会議協力学術研究団体として正式に認められました。引き続き、国立情報学研究所 学協会情報発信サービス利用に申請し、これも認められました。なお国立情報学研究所への登録に際し、登録部門を 1 つに限定するよう指示があり、本学会の性格を考慮した結果、第 8 部：複合領域部門に登録しました。

アドレスは以下の通りです。

(日本語) <http://wwwsoc.nii.ac.jp/aks/index.html>

(英語) <http://wwwsoc.nii.ac.jp/aks/index-e.html>

現在、建設中です。

---

---

## 4 . 編集委員会からのお知らせ

### 『共生社会システム研究』第 2 号への論文投稿について

『共生社会システム研究』第 2 号 (2008 年 6 月発行予定) への論文投稿は、以下の二つの部門に分けて受けつけます (締切日が異なりますので、ご注意ください)。

#### 一般投稿

すでに E メールにてお知らせしているとおり、一般投稿については 10 月 31 日 (消印有効) が締切となります。投稿規定などの詳しいことは、学会ホームページ (<http://jaks.exblog.jp/>) 内の「投稿規定」をご参照ください。また、投稿原稿の執筆および提出の際は、同ホームページの「執筆要領」に従って作成・提出してください。

#### 特集テーマ論文投稿

第 2 号では、特集として 2007 年度大会シンポジウム「共生型エネルギー社会の可能性」パネリストの論文が掲載されますが、このテーマとの関連で、「代替エネルギーおよびオルタナティブ・テクノロジーの現在」をテーマとしたサブ特集を組みます。このサブ特集のテーマに該当する論文の投稿を呼びかけます。こちらの投稿締切は一般投稿よりも遅く、11 月 30 日 (消印有効) です。

執筆および投稿の規定は一般投稿論文と同様ですので、熟読の上執筆・投稿してください。

本特集の投稿論文も、一般投稿論文同様に審査の上掲載の可否を決定いたします。また投稿多数の場合は、審査の上一般投稿論文として掲載される場合もありますので、ご承知おきください。

皆様ふるってご投稿ください。また、学会員、非学会員を問わず、本特集に執筆するにふさわしい方をご存じの方は、是非ともその方に声をおかけください。また、非学会員の方にとっては、入会の手続きを行うようご助言くだされば幸いです。

投稿についての質問および問い合わせは、下記、編集委員長 武田までお願いします。

『共生社会システム研究』編集委員長 武田庄平  
国立大学法人東京農工大学大学院 共生科学技術研究院 比較心理学  
〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8  
E-mail : takeda@cc.tuat.ac.jp TEL : 042-367-5588 (ダイヤルイン)

---

---

## 5 . 運営委員会事務局だより

6月に学会誌『共生社会システム研究』の創刊号が発刊されるとともに、大会開催が無事に終了しました。7月末には、本学会が日本学術会議協力学術研究団体として正式に認められ、本学会の活動は名実ともに充実しつつあるといってもよろしいかと思えます。運営委員会事務局としては、日本学術会議協力学術研究団体の名に恥じない学会運営に精進いたす所存です。会員各位におかれましては、より一層、学究活動に研磨されることを、また学会運営にも倍旧のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

学会員の皆様には会員拡大にご協力くださいますよう重ねてお願い申し上げます。入会申込書は学会ホームページからダウンロード可能ですので、本学会に関心を持ちそうな方が皆様の身近にいらっしゃいましたら、是非、お誘いのお声を掛けて頂ければ幸甚に思います。

また、学会ホームページに、学会会員が執筆された書籍等を紹介するコーナーを設ける予定です。会員が当学会の趣旨に関わる御著書を出されたときには、ぜひ運営事務局(千年)までご連絡ください。

---

---

## 会費納入のお願い

まだ 2006 年度会費を納入していない会員におかれましては、至急会費を納入していただきますようお願い申し上げます。会費は、一般会員 6000 円、学生会員 3000 円、賛助会員 20000 円となっております。よろしくようお願い申し上げます。

---

---

## 今後の学会カレンダー

学会誌 一般投稿締め切り 2007 年 10 月 31 日  
学会誌 特集テーマ投稿締め切り 2007 年 11 月 30 日

共生社会システム学会 会長 小原秀雄(女子栄養大学) 副会長 尾関周二(東京農工大学) 水本忠武(宇都宮大学)
--

運営委員会事務局 矢口芳生(運営委員長) 秋山満、安藤光義、稲村亮、千年篤、 中尾誠二、中島正裕、吉田央
---

共生社会システム学会ニュースレター 第3号 2007 年 8 月 31 日発行 編集・発行 共生社会システム学会運営委員会事務局 連絡先 〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8 東京農工大学農学府 千年篤研究室 気付 TEL: 042-367-5687 E-Mail: chitose@cc.tuat.ac.jp 郵便振替 00130-6-372850 (加入者名) 共生社会システム学会
---